

清川村立清川幼稚園

研究テーマ：「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」における議論等を踏まえ、
幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について
～遊ぼう！学ぼう！深めよう！未来へ輝け清川っ子～

1 実践の目的

今年度は、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に着目し、豊かな感性や非認知能力の育成を目指し研究に取り組んだ。

① 縦割り保育の充実

園生活を過ごす中で、優しさや思いやりの心を育み、友達と試行錯誤を重ね、切磋琢磨しながら育ち合える環境の工夫と、異年齢で過ごす時間と同年齢の友達と過ごす時間のバランスを図った。葛藤や失敗も学びのチャンスにしながら自己発揮し、一人ひとりが輝くことのできる保育を目指した。

② 学びの連続性を踏まえた幼保小連携

多様な可能性や非認知能力の育成を目指す上で、児童園児だけでなく、教職員同士の交流の機会も増やし、互いに親しみを持ち、チーム一丸となって清川っ子の遊びと学びを深めることを目指して取り組んだ。

③ 子育て支援

初めての集団生活となる園生活に、不安感を抱く保護者も少なくない。幼児期の育ちには保護者の理解と信頼が必要不可欠であり、親子共に安心と信頼を持って過ごせる保育を目指した。

2 実践の内容

① 縦割り保育の充実

～一人ひとりが輝くことのできる保育を～

他園訪問研修として、お茶の水女子大学こども園を参観した。園児主体の保育の展開と、興味関心を深めることのできる環境の工夫、そして園児と教師が一体となって

探究していく姿勢はとても印象的であり、自園で出来ることを探っていった。

異年齢で過ごすことで新しい考えに触れ思考力が育まれる環境の中、園児の“やってみたい”“伝えたい”という思いを実現させられるよう、教師が語り合いながら保育を振り返り、多面的に一人ひとりが輝く場面を捉え、環境の構成や教師の支援の方法を探る等、保育と教師の質の向上に努めた。



みんなでどろんこ
楽しいな！

② 学びの連続性を踏まえた幼小連携

～幼保小の連携を深めよう～

架け橋プログラム実施に向けた足がかりをつかむ為、異校種交流の機会や幼保小合同会議など教職員間の連携の充実に努めた。

異校種交流の機会では、小学校と幼稚園保育園の教職員が互いの場で授業・保育を行う“交換先生”や、小学校の校内研に参加させていただくこと、幼保小合同会議では、互いの教職員が集まり交流会の振り返りを行いながら学び(遊びを通した育ち)を共有し理解を深めている。

年長児：
うまくこげない
困ったなあ…



小学生：
ぼくたちが
手伝おう！



協議テーマ
「接続期の教育で
大切にしていること」

校長先生
おはようございます！



③ 子育て支援

～親子でふれあい楽しもう～

生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児期に遊びを通して学ぶ子どもの姿への理解を深めると共に保護者同士の交流の場となるよう、プレイユニットドロップさんをお招きし、講演会を開催した。

講演会テーマ
「家庭でもできる体を使った
表現なりきり遊びを通して」



3 実践の成果

異年齢での生活の中で優しさやいたわりの心の芽生えや、年齢の差や違いを認め合い、仲間として一緒に最後まで諦めずに力を合わせて挑戦すること等、目には見えない心の育ちがあった。そのことは、同年齢同士でも他者を認める柔軟な心を育み、園のリーダーである年長としての自覚を持ち、目的に向かってやり遂げようとする5歳児の姿、“やってみよう”と仲間と試行錯誤しながら実現しようとする4歳児の姿、学年を越えて気の合う友達を見つけ、会話を楽しみながら遊びを広げていく3歳児の姿等、全園児が年齢の差を越え、一人ひとりの個性や独自性をキラリと輝かせながら力を発揮していた。

また、今までの交流活動から一歩踏み込んだ教職員間の連携からは、様々なアイデアや発想があり、交流会以外でも児童・園児がふれあう機会が増えていった。特に、年長児が元気いっぱい校長先生に挨拶する姿や、園児・児童が互いに名前を呼び合い手を振る姿からは、小学校という場や学校の先生に慣れ親しみ、就学への期待感の高まりでもあり、幼保小連携の深まりを感じる場面であった。

あおむし発見！

飼って
観察しよう！

図鑑で
調べよう！



4 今後の展開

今年度の取り組みから培われた異年齢での生活で育つ力を基盤とし、今後も、縦割り保育での園児の育ちを捉え、ワクワクと心が動き、輝ける瞬間を大切に様々な体験を積み重ね、十分に自己発揮や自己肯定感を高められる保育の工夫に努めていきたい。